

昔は曲詰の創作と古図式研究に熱中
最近ではデータベースと出版に熱中

門脇芳雄

かどわきよしお

(見本)

9	8	7	6	5	4	3	2	1
					馬			歩
						馬	馬	
					と	桂		王
				角		角	馬	桂
								金

「 2 0 0 1 」 昭 59.4

「棒銀」

持駒 飛桂

- 2 四金、同 玉、2 五銀、1 三五、
- 1 二飛、同 歩、同角成、同 玉、
- 2 二桂成同 玉 A 1 四桂、1 二玉、
- 1 三步、同 玉、2 四銀打 1 二玉、
- 2 二桂成同 玉、3 二と、同 銀、
- 2 三銀打 1 一玉、2 一桂成同 銀、
- 同角成、同 玉、2 二銀打迄 27 手詰

昭和59年頃「2001」と言う週刊

誌の様な月刊誌が発行されていて、丁度2年間その詰将棋欄を担当しました。毎月半頁に軽い文章と詰将棋を載せるのですが、大衆相手だから簡単だろうと引き受けたらすぐに文章の書くタネが無くなって閉口しました。

本題はその欄に「棒銀」と題して発表した作品で詰上り四銀が一本棒になる曲詰です。この四銀は最初すべて玉方の銀だったもので、一枚も不動駒がないのが自慢です。本題の完成に気を良くしてその後「四金詰」「四桂詰」「四香詰」なども作りました。

一般大衆が相手ですから、そんな苦心をしても意味ないだろうし、ほとんど解ける人もいないだろうと思ったりしながらも、肩に力が入って独り相撲を取っている様な気分でした。

手順の大部分は強引な駒捌きですが、11手目、A 1 四桂は普通なら3 四桂と打つところですが、それだと1 一玉以

下その桂が角利きの邪魔になるので、1 四桂と非効率な方から打つのがちょっと洒落た手と自画自賛しています。

昭和9年1月9日、川崎市中原区木月住吉町30-31、年金生活者(元、古河電工勤務)、安井上夫、歩桂棋人、芳桂生、詰棋界昭26・第2号、約150題、弱い初段、東洋文庫の「詰むや詰まざるや」「続編」「曲詰百歌仙」など10冊ぐらい、拙著「詰むや詰まざるや」の作者・伊藤看寿、最近の凝った作品の構想はどこまで進歩するのかソラ恐ろしい。囲碁、音楽、読書、ゲートボール、一杯

写真(7行分)

